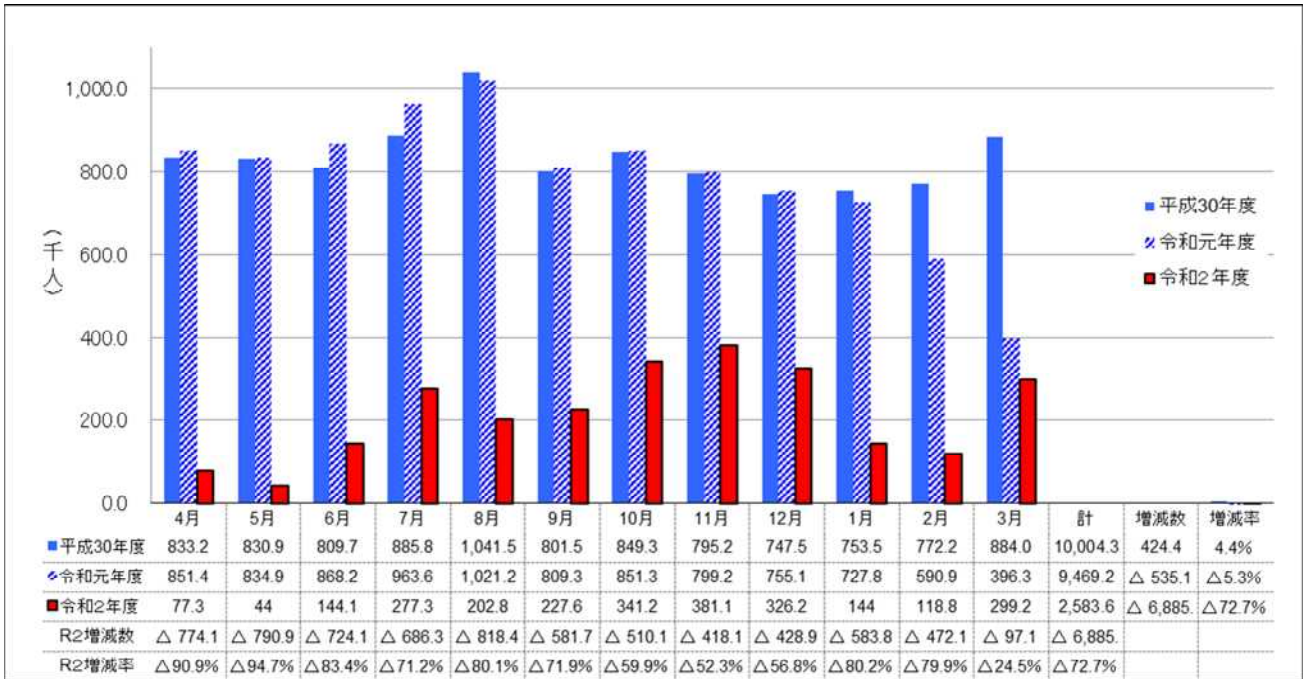


## 令和2年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課  
令和3年4月発表

**令和2年度の観光客数は、258万3,600人**  
 対前年度（R1）比 **-688万5,600人、-72.7%**  
 ～減少数、減少率ともに過去最大～

### ■月別入域観光客数の推移（平成30年度～令和2年度）



### ■令和2年度の概況（総括）

令和2年度の入域観光客数は258万3,600人で、前年度比で688万5,600人、率にして72.7%の減少となった。年度の観光客数としては、令和元年度に続いて2年連続で減少となり、昭和63年度の241万1,700人に次ぐ低水準となった。

令和元年度と比べて減少した要因は、次のとおりと考えられる。

- 新型コロナウイルス感染症の影響による旅行の自粛
- 国内航空路線の運休・減便による国内客の減少
- 海外から日本への入国制限措置がとられたことによる外国客の減少（皆減）

### ■令和3年度の見通し

国内客については、新型コロナウイルス感染症の感染状況やGo To トラベル事業の実施状況などに大きく影響されると考えられる。

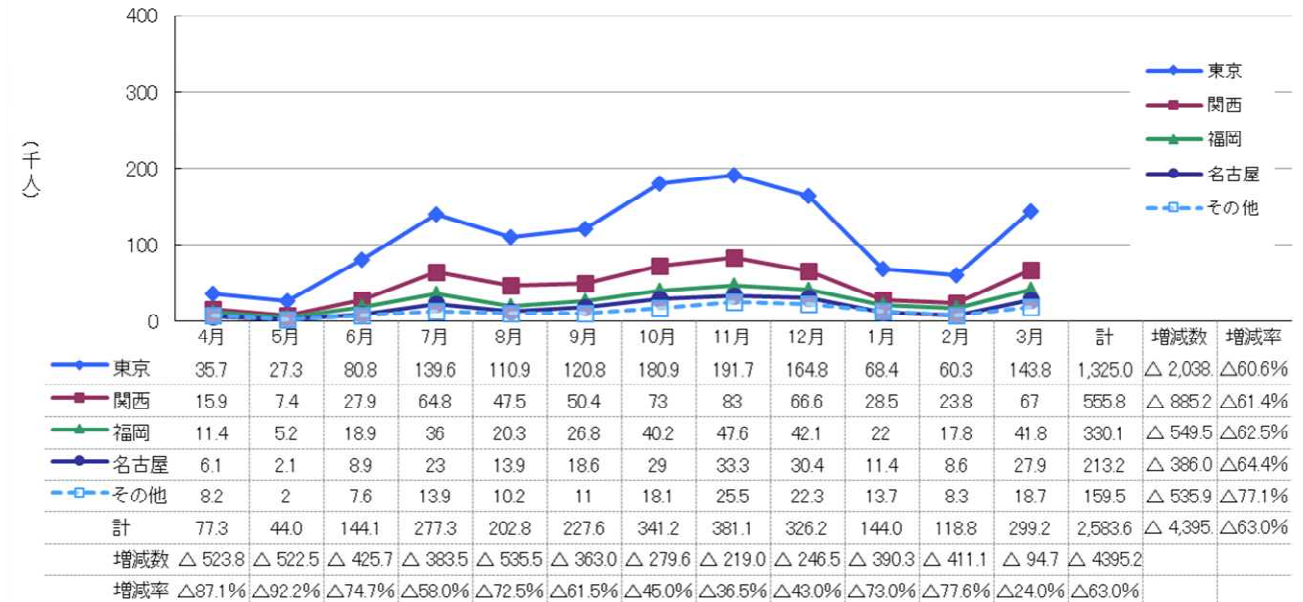
また、外国客については、海外から日本への入国制限措置が講じられていること、東京オリンピックにおいて海外観客の受入を行わないこと等から、少なくとも年度前半までは厳しい状況が見込まれる。

## 国内観光客の動向

### ■入域観光客数（国内）

令和2年度の国内客は、対前年度比で439万5,200人、率にして63.0%減の258万3,600人となり、令和元年度に続き2年連続で減少となった。

### ■令和2年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



### ■国内観光客の概況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛等から、国内旅行需要が大幅に減少した。

4月、5月は国や沖縄県から緊急事態宣言が発出され、ゴールデンウィークを含む期間で、旅行自粛要請があったこと、また、例年ハイシーズンとなる8月から9月上旬にかけては、沖縄県緊急事態宣言が発出、1月から3月にかけて国や県の緊急事態宣言が発出され、県外からの慎重な渡航が呼びかけられたことなどから、前年度を大きく下回った。

#### 【方面別の動向】

**東京方面** 成田-石垣路線の提供座席数の増加や羽田-下地島路線の新規開設があったものの、羽田-那覇路線などの減便規模が大きかったことなどから、前年度を大きく下回った。

**関西方面** 伊丹-石垣路線の提供座席数の増加や神戸-下地島路線の新規開設があったものの、関西-那覇路線などの減便規模が大きかったことなどから、前年度を大きく下回った。

**福岡方面** 福岡-那覇路線などの運休・減便により提供座席数が減少し、航空路線の運航規模が縮小されたことなどから、前年度を大きく下回った。

**名古屋方面** 中部-那覇路線などの運休・減便により提供座席数が減少し、航空路線の運航規模が縮小されたことなどから、前年度を大きく下回った。

## **外国人観光客の動向**

### **■入域観光客数（外国）**

令和2年度の外国客は、令和元年度の249万400人から皆減となり、減少数、減少率ともに過去最大の減少、復帰後初めて外国人観光客が0人となった。

### **■外国人観光客の概況**

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響から、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、外国人観光客が皆減となった。